

西日本有数の学芸員・司書養成機関

【附属博物館（本館）】

別府大学博物館の歴史は古く、1954年に上代文化研究所の附属施設として開設、1980年に実習室、燻蒸室、保存科学室、展示室、収蔵庫などを完備した4階建ての別府大学附属博物館が学芸員実習施設として開館しました。昨年6月、博物館創立50周年を記念し「附属博物館50年の歩み」「博物館の現状と課題」と題する講演会、ギメ博物館所蔵日本古写真展などが行われました。

当館の収蔵・展示資料の大半は本学の考古学研究室および博物館独自の学術調査による一括資料で、学界でも高い評価を得ています。



【歴史文化総合研究センター】

当センターは、附属博物館（新館）、文化財研究所、アジア歴史文化研究所などを集積した複合的な施設として1999年に建設しました。

特に、文化財保存科学関連の蛍光X線解析装置や電子顕微鏡など科学機器を充実させました。本学では毎年約230名の学生が学芸員の資格を取得していますが、その学芸員実習の拠点となる実習室、展示ホールや収蔵施設等も整備し、本館と併せ、わが国でも屈指の実習博物館となっています。

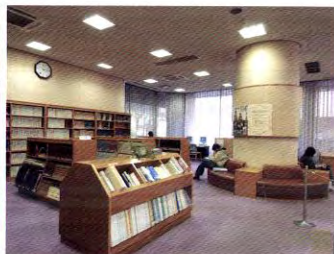
卒業生の多くが西日本各地の公立博物館の学芸員をはじめ県や市町村等の文化財専門職員として活躍しており、本学の博物館とのネットワークづくりに大いに貢献しています。

また、博物館本来の目的から地域社会に学術研究の成果を公開し、市内の小・中学生の社会科の校外授業や地域の人々の生涯学習に常時施設を開放しています。

【附属図書館】

キャンパス中央の主要スペースに附属図書館があります。貴重本、初版本などのコレクション、考古学、東洋史関係の資料、九州における遺跡発掘調査報告書の収集、個人寄贈による学術書のコレクション等、その学問的に系統だった蒐集が注目されています。

毎年、約200名の大学・短大の学生が司書・司書教諭課程を履修していますが、その実習施設として、また1951年から毎年200名以上が受講する文部科学省委嘱の司書・司書補夏期講習の開催など、本学附属図書館は西日本随一の司書養成機関としての実績を上げています。



キャンパス散策（別府大学）

学校法人別府大学は、日本一の温泉湧出量を誇り、国際温泉都市として知られる大分県別府市に立地し、眼下には紺碧の別府湾、背後には由布・鶴見の秀麗な山々が連なる風光明媚な丘の上にあります。1908年に学園が創立されて今年で97年、2008年に学園創立100周年を迎えます。

本学園は2学部7学科を設置する大学、1研究科4専攻を置く大学院、4科2専攻を設置する短期大学部のほか、看護専門学校、高等学校、中学校、小学校、幼稚園、保育園などを設置する文字通りの総合学園です。

別府大学は開学以来、建学の精神「真理はわれらを自由にする」をモットーに、「21世紀への創造」をテーマに掲げ、教育・学術等を通して地域に貢献できる人材の養成を目指し、国際化・情報化社会に対応した教育・研究を推進しています。

別府大学の歩み

九州初の私立の女子大学として1950年に別府女子大学（文学部／国文科、英文科）を開学、1954年に別府大学と改称し、男女共学となりました。また同年、別府大学短期大学部を併設しました。

文学部には1963年に史学科を、1973年に美学美術史学科（現在の芸術文化学科）、1989年に留学生の日本語学習のため別科日本語課程、1997年に文化財学科、2000年に人間関係学科を次々に設置し、2002年に食物栄養学部（食物栄養学科）を設置するまでの半世紀の間、文学部だけの単科大学として独特な学風を築いてきました。

1997年には大学院を設置し、現在では文学研究科史学専攻（博士前・後期）、日本語・日本文学専攻（博士前・後期課程）、文化財学専攻（博士前・後期課程）、臨床心理学専攻（修士課程）を置く大学院として充実発展しています。

短期大学部は現在別府キャンパスに食物栄養科、初等教育科、専攻科（初等教育専攻、福祉専攻）を、大分キャンパスに地域総合科学科、保育科を設置しています。

環境

大学周辺は別府市の閑静な住宅街です。17年前に本学園の提案で開業したJR別府大学駅から大学までの「大学通商店街」は、学園の発展とともに充実し、マーケットや銀行、病院などがすべて揃っており、市内では最も住みよい地域となっています。

「まず大学ありき」で、学生の下宿やアパートが大学を取り巻き、住宅街が広がり、学生や地域の住民のため誘致した別府大学駅のもたらす恩恵など、学生にとっては住民のあたたかい視線に見守られながら快適に暮らせる生活環境が整っています。



国際交流

1980年代にハワイ大学や復旦大学等との姉妹校締結以来、主に韓国、中国、台湾の大学との姉妹校提携や教育学術交流協定を進め、既に40の大学と交流しています。近年、フランスやイギリスの大学との留学生の相互受け入れが本格化しています。

1989年、ハワイ大学からの提案で日本語・日本事情を中心とした第1回国際サマーセミナーを開催し、以降毎年、短期の国際セミナーを（1994年からは冬季セミナーも）行ってきました。このセミナーには海外から年間に延べ20大学、約500名が参加しています。これら本学の国際教育交流に対する意欲的な取組が評価され、文学部を中心に本科、別科、短期留学等合わせて約600名の留学生が本学で学んでいます。

地域に根ざしたセンターを開設

歴史文化の宝庫と呼ばれている宇佐市と日田市の要請を受け、1995年宇佐市に宇佐教育研究センターを、1998年日田市に日田歴史文化研究センターを開設しました。センターでは地域の人々と本学の教授陣の手で各種のセミナーが開かれ、学生達の現地学習に絶好の場となっています。



宇佐教育研究センター



日田歴史文化研究センター

【健康センター】

当センターは学生や教職員の健康管理や体力づくりの場として活用されています。大学施設開放の理念から、地域住民対象の公開講座「健康・体力づくり講座」を毎年開講し、また、別府市の介護予防事業として高齢者の健康・体力づくり推進事業「湯けむり健康教室」を別府市と共催しています。食物栄養学部の教授陣や学生も積極的に参加し、運動・食事・休養のバランスの研究や、運動療法を実践しています。

大分キャンパスと文化ホール

大分キャンパスは大分市郊外の緑豊かな自然林に囲まれ、その静かな環境の中で短期大学部の地域総合科学科と保育科の学生が学んでいます。

1995年に建設された「別府大学文化ホール」は、クラシック専用ホールならではの音響の良さが高い評価を受け、質の高い文化施設として市民に愛されています。1996年から大分キャンパスの全学生を対象に、国内外の第一線で活躍している演奏家を講師に迎え、音楽鑑賞会が毎月授業の一環として行われ、学生たちや一般聴講生に多くの感動を与えています。他にも、大阪国際室内楽コンクール優勝者による「グランプリコンサート」を毎年主催するなど室内楽の振興に大いに貢献しています。

また、大分キャンパス内には放送大学大分学習センターが誘致され生涯学習の拠点となっています。



大分キャンパス